



[平成30～34年度版]

秋田県立 ゆり支援学校教育プラン

I 学校の現状と課題・学校を取り巻く将来の状況の予測

1 児童生徒数の緩やかな減少と、一人一人の教育的ニーズを踏まえた教育課程の編成

本校は平成11年4月に開校(児童生徒数42名)、平成19年度には102名(最大)となったが、近年は90名前後で推移している。

今後は由利本荘・にかほ地区の児童生徒数の減少が進み、緩やかな減少が予想される。児童生徒の構成は、全校の半数以上を高等部生が占める状況が続いている。障害については、今後も小学部には重度知的障害や肢体不自由を併せ有する児童が、中学部、高等部には特別支援学級や通常学級から軽度な知的障害や発達障害、精神疾患などを有する生徒が入学することが予想される。

そのため、小学部から入学する児童に対して小学部から高等部まで一貫した教育を行うとともに、外部からの入学・転入学者の障害特性を踏まえた教育内容や支援が求められる。

また、児童生徒数の減少や生活スタイルの変化により寄宿舎の在籍数も減少することが予想されるため、これからの寄宿舎の在り方についても検討が必要である。

2 コミュニティ・スクール(以下CS)を核とした学校づくり

これまで、地域の幼稚園・保育所、小・中学校、高等学校との交流及び共同学習や居住地校交流、部活動などの交流を積み重ねてきている。また、近年、総合的な学習の時間の一環として地域応援活動「みんな元気プロジェクト」に取り組み、地域のニーズに応え、奉仕活動や環境整備、作業学習交流、販売活動を通して地域との関わりを広げてきている。

この関わりを双方向のものとし、地域と役割分担や相互補完しながら共通の目標を達成するために県内特別支援学校初のCSを活用した学校づくりが求められる。

さらにCSを通して、関係者以外の一般の方々に本校の教育活動や特別支援教育について理解啓発していくとともに、卒業生の社会生活への円滑な移行を目指す。

3 社会情勢・生活様式の変化、障害の多様化に対応した生徒指導、進路指導の充実

スマートフォンの普及、それに伴うSNS上のトラブルの増加など軽度な知的障害をもつ生徒の生徒指導に新たな要素が加わり対応が難しくなっている。また、地域に事業所新設が進まず、福祉的就労・福祉サービス(生活介護等)や就労継続支援B型の進路確保が年々難しくなっている。

4 地域の幼稚園・保育所、小・中学校、高等学校のニーズに応じたセンター的機能の実施及び充実

小・中学校等において、特別な支援を必要とする児童生徒が在籍した際の適切な対応の在り方に関する助言が求められている。さらには幼稚園・保育所を含む就学前の幼児や高等学校からの相談等も増加している。関係機関や特別支援教育コーディネーター等との連携や自園・自校で解決できる相談・支援体制の確立を促すための支援を提供していく必要がある。

II 目指す方向性・学校像や児童生徒の姿

○目指す学校像 ～地域と共に歩み、地域で育ち、地域に必要とされる学校～

- ・自立と社会参加を目指し、教育的ニーズに応じた適切な教育活動を展開する学校
- ・CSを活用し、特色ある教育活動を推進するとともに、地域交流・地域貢献を通して地域を元気にする学校

○目指す子ども像

- ・元気な子：心身共に健康で楽しくのびのびと生活する児童生徒
- ・がんばる子：興味や意欲をもって、主体的に最後まで活動に取り組む児童生徒
- ・思いやりのある子：友達を大切に、協力しながら活動する児童生徒

Ⅲ 具体的な目標・取組・推進指標

目標 1 自立と社会参加を目指し、CSを核に、地域のニーズや特色を踏まえた教育活動の充実

取組(1) 一人一人の教育的ニーズに応じた教育課程の編成 [学校評価3.2以上]

- ① 卒業後の自立と社会参加、豊かな地域生活を目指した教育活動の構築
- ② 自立活動委員会を中心に重複障害児の指導・支援方法の検討及び情報共有
- ③ 軽度な知的障害や発達障害等の障害特性の理解促進と情報共有
- ④ 校内資源の活用及び関係機関との緊密な連携推進による生徒指導上の課題への早期対応と情報共有

取組(2) CSを活用した地域の特色を踏まえた教育課程の編成 [学校評価3.3以上]

- ① 学識経験者、地域、労働、福祉、教育等、様々な分野からなる学校運営協議会委員の委嘱とその提言を生かした教育活動の展開
- ② 地域交流や居住地校交流、交流及び共同学習の調整及び推進
- ③ 由利本荘市CS連絡協議会への参加等による市内小・中学校との連携推進

取組(3) 一人一人の卒業後の豊かな生活を目指した授業実践 [学校評価3.3以上]

- ① 社会的要請及び教育的ニーズを踏まえた研究主題の設定と全校研究会(年間3回)の実施
- ② 指導助言者を招へいした全校授業研究会や学部授業研究会の開催
- ③ 授業デザインミーティングの実施と授業改善シートや授業改善プロジェクトチームの活用
- ④ ねらいや支援・手立ての明確化と評価を積み重ねる授業の実践
- ⑤ 外部専門家(言語聴覚士、理学療法士、作業療法士等、年間40時間以上)及び道川分教室(本校より年間5人の研修派遣)を活用した教師の専門性の向上
- ⑥ 教科(音楽・美術・保健体育等)及び部活動(スポーツ・文化芸術活動)を通した生涯学習への意欲向上

取組(4) キャリア教育及び進路指導の充実 [学校評価3.2以上]

- ① 研究主題との関連を重視したキャリア教育全体計画及びキャリア教育指導内容表の年度ごとの更新
- ② 小・中学部、高等部での計画的・系統的な体験学習の実施(年間各20時間以上)
- ③ 高等部におけるデュアルシステム型現場実習の通年実施(毎年3人以上)
- ④ 地域の特産品を生かした作業学習製品や食品加工製品の開発
- ⑤ 寄宿舎を活用した基本的生活習慣の確立及びライフキャリアを形成する力の育成

目標 2 質の高い特別支援教育の展開と、一人一人の教育的ニーズに応えるセンター的機能の充実

取組(1) 幼稚園・保育所、小・中学校、高等学校における特別支援教育の充実

- ① 特別支援教育セミナー等、学校訪問を通しての情報提供及び助言
- ② 自校での課題解決に向けた校内支援体制の充実
- ③ 障害のある児童生徒に対する個別の指導内容・方法について相談・助言
- ④ 児童生徒の知能検査等による障害特性の把握と指導方法への助言
- ⑤ 特別支援教育アドバイザー配置による相談機能の充実

取組(2) 関係機関との緊密な連携による地域の特別支援教育の充実

- ① 由利本荘市・にかほ市特別支援連携協議会の定期開催による情報共有(年5回)
- ② 幼保コーディネーター研修や特別支援教育支援員研修への講師派遣等の協力

取組(3) 学校における学習指導及び生涯にわたる支援の充実

- ① 労働、福祉、医療、教育等関係機関の連携による支援を効果的に実施する個別の支援計画の作成
- ② 個々の教育的ニーズに対応し、指導目標や指導内容・方法を盛り込んだ個別の指導計画の作成と改善
- ③ 個別の支援計画及び個別の指導計画を有機的に活用するシステムづくりの推進

平成30年度の重点事項（5か年計画の1年目）

- ◇新しい研究主題（設定理由）の全職員による共有と、研究内容・方法に基づいた教育実践と検証
- ◇「生きる力」を高める国語や算数、数学の年間指導計画及び指導内容・方法、他の教科等との関連などの検討（学部ごと）
- ◇コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の理解推進とコミュニティ・スクールを活用した教育課程の編成
- ◇各学部・学級単位の地域応援活動「みんな元気プロジェクト」の推進
- ◇知的障害教育における自立活動の在り方（指導・支援方法等を含む）の検討
- ◇「これからの寄宿舎の在り方検討委員会」の設置と開催

目標1 自立と社会参加を目指し、CSを核に、地域のニーズや特色を踏まえた教育活動の充実

取組(1) 一人一人の教育的ニーズに応じた教育課程の編成

- ① 自立活動推進委員会を中心に、重複障害児の週時程及び指導・支援方法を検討するとともに、肢体不自由教育の教育専門監を招へいしての全校研修会の実施（年2回）
- ② 指導事例集の発行や教材・教具（ICT活用を含む）の学習会の開催（年2回）

取組(2) CSを活用した地域の特色を踏まえた教育課程の編成

- ① 学校運営協議会に係る「地域交流」「労働」「福祉」「教育」の4つのワーキンググループに分かれての熟議
- ② CSを活用（渉外・連絡・調整等）した地域応援活動「みんな元気プロジェクト」の充実
- ③ 地域交流や小・中学校、高等学校等との交流及び共同学習、居住地校交流の充実
- ④ 由利本荘市CS連絡協議会での活動報告

取組(3) 一人一人の卒業後の豊かな生活を目指した授業実践

- ① 研究主題の設定と各学部・寄宿舎研究初年度の取組
- ② 全校授業研究会（全学部）や学部授業研究会（年次研を活用）の開催
- ③ 授業デザインミーティング（年度当初2回、夏季休業中1回）の実施
- ④ 卒業後の生活を見据えた実用的な国語や算数、数学の指導内容・方法の検討（学部研で実施）
- ⑤ JKP（授業改善プロジェクト）通信の発行（年間10回）

取組(4) キャリア教育及び進路指導の充実

- ① 研究主題とリンクしたキャリア教育全体計画及びキャリア教育指導内容表の更新
- ② 高等部1・2年生の経験の拡大と、事業所による本校生徒の理解促進を図るためのデュアルシステム型現場実習の通年実施
- ③ 高等部3年生による就労を目指したデュアルシステム型現場実習の通年実施
- ④ 本荘組子製品及び地域食材を使った加工製品の開発
- ⑤ 作業学習や生活単元学習を通じた地域の方々との交流活動や地域イベントとリンクした販売活動等の実施
- ⑥ 「これからの寄宿舎在り方検討委員会」の設置、検討
- ⑦ 寄宿舎を活用した自宅通学生の発達段階に応じた生活体験の実施

目標2 質の高い特別支援教育の展開と、一人一人の教育的ニーズに応えるセンター的機能の充実

取組(1) 就学前教育、小・中学校、高等学校における特別支援教育の充実

- ① 特別支援教育セミナー、特別支援学級スキルアップ授業研修等、学校訪問を通しての情報提供及び助言
- ② 地域の特別支援教育のニーズに対応した研修会の実施（年間1回）

取組(2) 関係機関との緊密な連携による地域の特別支援教育の充実

- ① 由利本荘市・にかほ市特別支援連携協議会の定期開催による情報共有（年5回）
- ② 由利組合総合病院（院内学級）への定期的な職員派遣並びに短期入院等の児童生徒のニーズに応じた「教育相談支援」「通級による指導（自立活動）」の提供